

三	遠	南	信	の
無	形	民	俗	文化財を
継	承	す	る	ために

浜松市文化振興担当部

無形民俗文化財の宝庫

- 三遠南信には、豊富な無形民俗文化財が伝えられています。
- 早くから柳田國男、折口信夫ら民俗学の大家が注目し、郷土史の研究者も現地取材してきました。

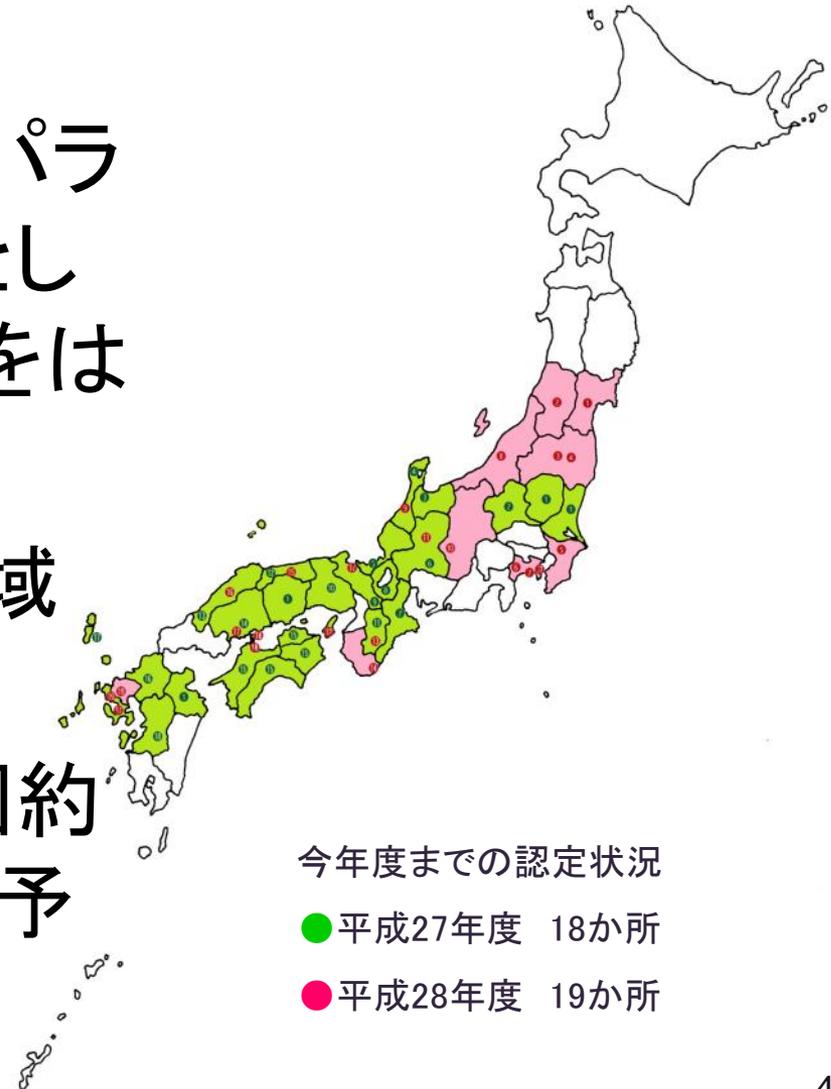


三遠南信の構成要素（候補）

- 昨年の三遠南信サミットで、民俗文化財で日本遺産を目指す方針を示しました。
- 浜松市から35市町村に照会したところ、申請に参加・あるいは協議に参加を表明された市町村から提案された構成要素の総数が300件となりました。
- 文化庁からは、構成要素の精査と、しっかりしたストーリーを求められています。

文化庁 日本遺産制度

- 文化庁は、東京オリ・パラに向けた新たな事業として「日本遺産」の認定をはじめました。
- 文化財を核として、地域の振興をはかります。
- 2020年度までに、全国約100か所が認定される予定です。



無形民俗文化財の課題

- 文化財を支えてきた集落の人口減少などによって、次世代への継承が危ぶまれています。
- 中山間地だけの問題ではなく、都市部でも同様です。
- 神事につながる行事を、単に観光向けに開放することには危惧もあります。

「静岡新聞」2015年6月26日

飛躍への道程

浜松市合併10周年

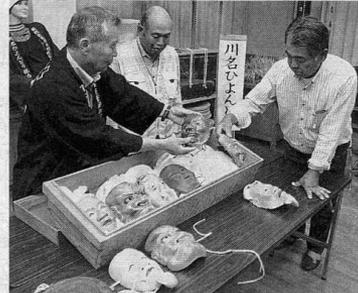
400年以上の歴史を刻んできた六つの面には、独特のすゝみが漂う。「川名のひよどり保存会」の前嶋功会長(66)「浜松市北区」は面に触れるたび、強い使命感に駆られる。「先祖が眠々と継承してきた重みは計り知れない。絶対に絶やしてはいけない」

市内に伝わる国、県、市指定の重要無形民俗文化財は13。指定されていない神事や芸能などを含めれば、500以上とも言われている。国指定の無形文化財がなかった合併前の浜松市。市域が広がったことで、一転して国指定の民俗文化財の宝庫になった。合併後の2007年、「遠江浦の田楽(同市天竜区)や川名のひよどりとおとくいな連絡協議会」が発足した。13年には四

重要無形民俗文化財

消滅防ぎ継承の責務

川名のひよどりで使う面を点検する保存会の前嶋功会長(左端)ら—16日、浜松市北区



花の舞(同)などを含めた19団体が構成する市無形民俗文化財保護団体連絡会が誕生。芸能の担い手が分野を超えて集い、課題解決に向けて意見を交わす。民俗芸能保護の観点に限れば、合併は「強い追い風」(前嶋会長)だった。

地域の多彩な伝統芸能は、研究対象として関心を集めてきた。各地の祭りを網羅したウェブサイトの制作に取り組み静岡大情報学部の杉山岳弘教授(45)は「旧市町村の枠組みでできない発想だった」と振り返る。

一方で、調査の過程で感じた危機感も大きい。大半の芸能は深刻な後継者不足に悩んでいる。関係者と連絡が取れず、既に消滅したと思われ、金能もあつた。

楽器産業に立脚した都市部の音楽文化と、農村に伝わる土着文化。二つの文化が共存する独自性は市の魅力を高め、アジア初の国連教育科学文化機関(ユネスコ)創造都市ネットワーク加盟への原動力になった。

合併で文化の多様性を深めた市は同時に、消滅の危機に直面した伝統芸能を守り続ける責務を負った。市文化財課の太田好治課長は「欧米が日本に期待するのは、極めて日本的伝統音楽。浜松の文化は世界の宝でもある」と強調。消滅という最悪の事態からも目を背けず、復元に備えて映像記録を残す作業も続けている。(浜松総局・高村徳)

浜松・保存団体連絡会の設立

- 浜松市は合併を契機に、市内19の団体が浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会を設立しました。
- 「^や谷が違う」暮らしを、お互いに理解する機会となりました。



学校連携継承事業を開始

- 小・中学校で地域の芸能を継承する授業をしています。
- 浜松市教育委員会の人づくりネットワークと連動します。



無形民俗振興条例

- 浜松市議会は、浜松市民俗芸能の継承及び振興に関する条例を全会一致で制定しました。

浜松市議会

民俗芸能条例制定へ

日本遺産認定後押し

浜松市議会は18日までに、市内に伝わる神楽や田楽などの無形民俗文化財を守り育てる「市民俗芸能継承振興条例」を議員発議で制定する方向で調整に入った。民俗芸能の継承をうたった自治体条例は全国的にも珍しいという。23日の議会運営委員会の方針を固める見通し。複数の関係者への取材で分かった。

浜松市内には「川名のひよんどり」(北区)や「西浦の田楽」(天竜区)などの国、県、市指定の無形民俗文化財があり、市は文化庁の「日本遺産」認定を目指している。議会関係者は「こうした動き

浜松市には「川名のひよんどり」(北区)や「西浦の田楽」(天竜区)などの国、県、市指定の無形民俗文化財があり、市は文化庁の「日本遺産」認定を目指している。議会関係者は「こうした動き

念をはじめ、民俗芸能の普及、知識、技能の継承に関する市民、関係団体、市の役割などを定める予定。情報発信や顕彰、必要な予算上の措置についての条項も設ける見通し。日本遺産への申請は

同市が首頭を取り、三遠南信地域と広域連携を進める方針。市の関係者は「条例が制定されれば、全国に先駆け取り組みになる。各地のモデルケースになり得る」と議会側の動きを歓迎している。

「静岡新聞」2016年3月19日

山フェスへの参画

- 中山間地と都市部の交流で歌舞伎を上演。



2016年10月1日 浜松市駅前

学会との連携

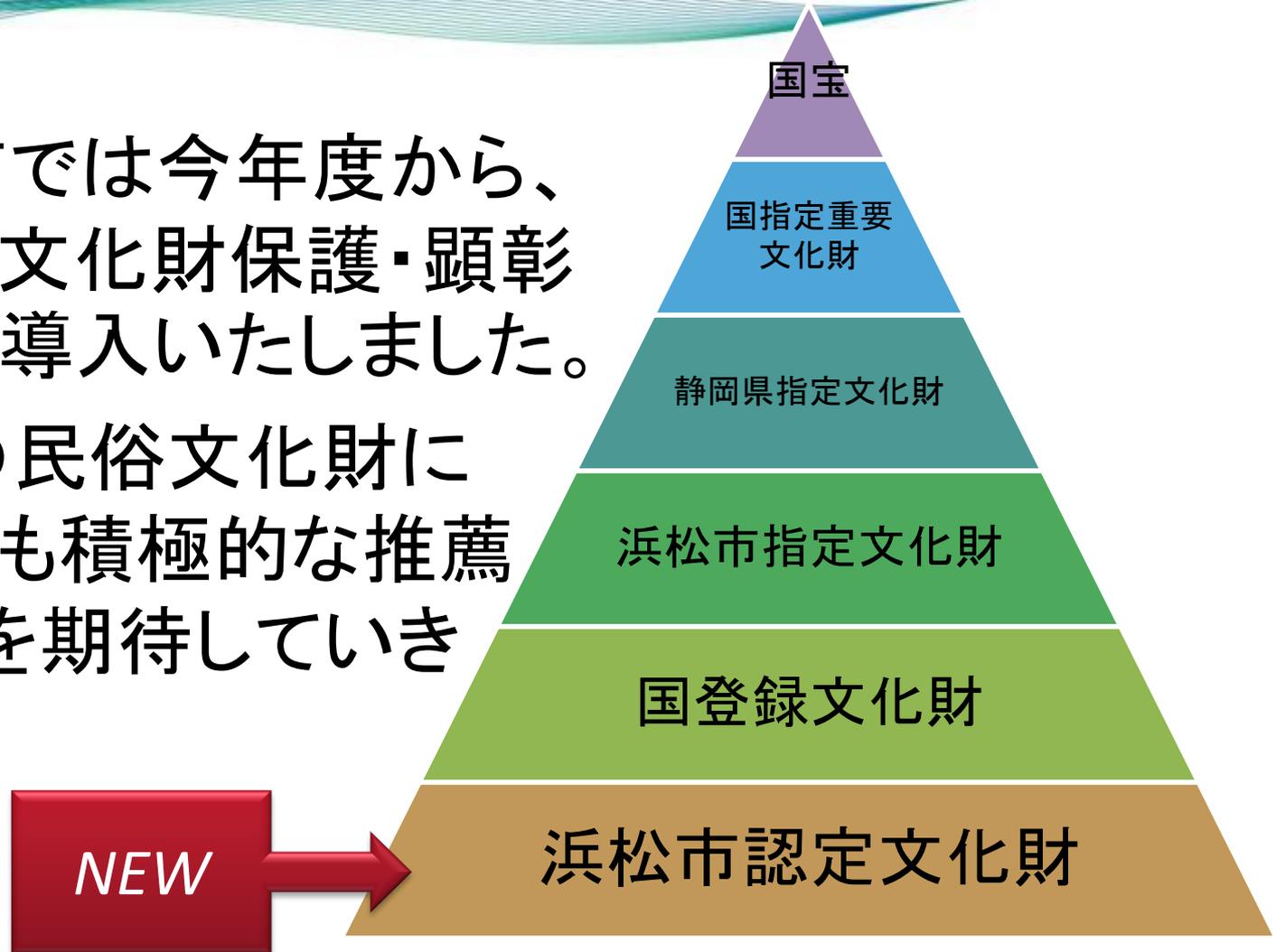
- 民俗学以外の学会からも注目されています。



2015年10月31日 中世文学会 静岡文化芸術大学

認定文化財制度の導入

- 浜松市では今年度から、新たな文化財保護・顕彰制度を導入いたしました。
- 市内の民俗文化財についても積極的な推薦・認定を期待していきます。



東京オリパラ文化プログラム

- 近代オリンピックでは、スポーツを文化・教育と融合させ、生き方の創造を探求すると、オリンピック憲章で位置づけています。
- 2012年のロンドン大会以降、「新たな文化プログラム」の時代を迎えています。



- 東京オリンピック・パラリンピックに向けて、全国から地域固有の文化発信が期待されています。

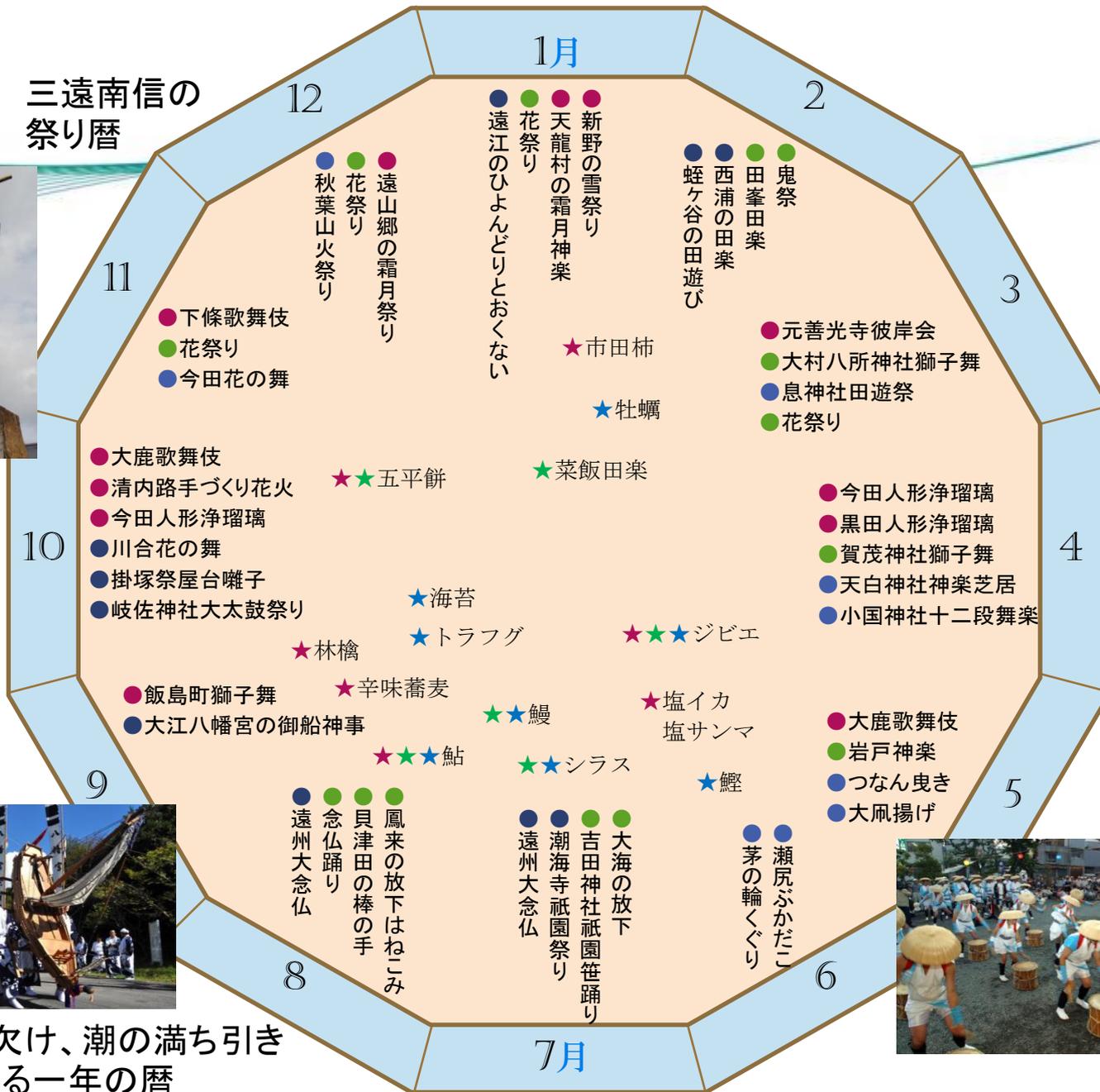
日本遺産への展望

三遠南信連携による無形民俗文化財継承の活性化、地域の活性化のための提案。

・さまざまな無形民俗文化財を訪ねたい	☞	海・山の民俗・神楽・盆行事・予祝・村歌舞伎など多彩
		祭礼当日のガイドツアー等の手配、旅行会社への提案
		祭礼のいわれや関連を紹介する講演会等を開催
		不入の神事については、来訪者に意義を確実に伝える
		外部公演、域外写真展などの積極的展開
・宮崎アニメの舞台に世界が注目	☞	神々を表す仮面は、数百面。祭礼日以外は展示紹介可能
		海外公演、国際シンポジウム等の計画、具体化
・祭りを体験したい、祭りの流れを知りたい	☞	体験イベントも多彩、展示館等が各地に点在
		祭礼の無い日も、ビデオ上映館等で対応可能
		モーションピクチャーやVRなどでの疑似体験を開発
・祭りの継承に協力したい	☞	伝統を継承するための参加メニューを提案
		教委連携による小・中・高校生継承事業を実施中
		大学連携事業、学生ボランティアの拠点設置
・この地域の日々の暮らしを体験したい	☞	各種協力隊の紹介、農家民泊のプログラム拡充

※2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた、文化プログラムの展開が可能。

三遠南信の 祭り暦



月の満ち欠け、潮の満ち引き
とともにある一年の暦



終

ご清聴ありがとうございました。

